

# Heart warming



令和2年11月10日（火）

いじめ対策通信 第5号

いじめ対策監：浦崎伸太郎

「知らない間に人をいじめていた」・・・、

**こんなに怖いことはありません。**

「いじめを見逃さない日」にあたる10月5日（月）、私から以下のような話をしました（ぜひ、お家の方にも読んでもらってください）。

国が2013年に制定した法律、「**いじめ防止対策推進法**」第2条において、「いじめとは、ある生徒に対して、他の生徒が行う、心理的又は物理的に影響を与える行為であり、被害生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。」とされています。この法律が制定されたのは、2011年、滋賀県大津市の中学校で、中学2年生の男子が、同級生から何度も殴られたり、ガムテープで巻かれたり、虫を食べさせられたりしたことを苦に自殺した、「大津市中2いじめ自殺事件」がきっかけとなりました。国の法律ですから、被害生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるようないじめについては、学校だけでなく、警察も対応するように義務づけられており、犯罪行為にあたるいじめについては、法律によって罰せられます。すなわち、それだけ日本という国全体が、いじめについて重大に受け止め、防止のために全力であたるようになってきた時代がやってきた…ということです。

さて、話を最初に戻します。「いじめにあたるのか」「いじめにあたらぬのか」を判断する時に、最も重要になるのが、「被害を受けた生徒」です。「被害者主観」とも言います。つまり、いじめを行った生徒が「いじめつもりであったかどうか」は、どうでもよいのです。**肝心であるのは被害を受けた生徒の心情で、その生徒が、心や体に苦痛を感じたとすれば、それはいじめとなる**のです。

私は、昨年から生徒指導主事という仕事をしながら、たくさんの生徒間トラブルに関わってきました。その中にはもちろんいじめもありましたが、いじめを行った生徒の言葉で、圧倒的に多かったのが、「いじているつもりはなかった」というものでした。**いじているつもりはなくても、被害を受けた子の心や体が壊れてしまったら、法により罰せられたり、その責任を一生負っていくことになったりすることにつながりかねません**。ですから、みなさんもよく日頃から話している通り、「今の自分の言動が相手を傷つけていないかどうか」を常に考えて、生活していく必要があるのです。

これまでの「いじめを見逃さない日」の講話では、みなさんの心に投げかけるような、みなさんの心を成長させるような話が多かったと思いますが、今回は、私の役割上、法律的な観点から話をしました。それを受けてのみなさんの感想や意見を、紹介します。

- 「いじているつもりはなくても、それは結果的にいじめだった」という話をよく聞きます。「いじりなのか」「仲が良いだけなのか」、とても分かりづらけれど、十分に気を付けていかないといけないな、と思いました。 **1年男子**
- 法律になるほど、日本は、いじめ防止に向けて一生懸命取り組んでいることが分かりました。 **1年男子**
- 今日の放送を聴いて、私は少しドキッとしました。自分はそう思っていなくても、相手が嫌な気

持ちになっていた可能性があるかもしれないからです。「自分の行動が、相手を傷つけていないかどうか」を、よく考えて行動していきたいです。 **1年女子**

• いじめによってストレスがたまると、心が死んでしまい、自殺につながってしまいます。いじめを受けた人の気持ちを、みんなよく考えないといけないと思います。 **1年女子**

• 今までの放送とは違い、「いじめをするとどうなるのか？」について語る放送でした。いじめは犯罪となる場合もあるので、絶対に駄目だと思いました。 **1年女子**

• いじめは人の心を傷つけるものだけど、人によって心が折れるタイミング（風船が割れるタイミング）が違うことを知りました。仲間に「死にたい」なんて思わせては、つらい思いをさせては、絶対に駄目です。 **1年女子**

• いじめの法律や定義なんて、全く知らなかったので、とても勉強になりました。 **2年男子**

• 少しでも早く、長森南中からいじめがなくなれば、安心して学校生活が送れます。 **2年男子**

• 些細な小さなことで傷つく心の人、そこまで傷つかない人・・・「多種多様だな」と思いました。一人一人の性格など内面的な部分を理解してあげることが大切だと思いました。 **2年男子**

• いじめと聴くと、つい暴力をイメージしがちだけど、それだけじゃないです。 **2年女子**

• 「いじめかどうかは、いじめられている人の気持ちで決まる」ことを初めて知りました。自分の一つひとつの行動を見直したいです。 **2年女子**

• 「いじめているつもりはなかった」・・・この言葉ほど、無責任なものはないと思います。自分の行動に責任をもって生活していかないとはいけません。 **2年女子**

• 人は弱い生き物です。人は、いじり合っている時、楽しい気分になってしまいます。楽しい気分になると、周りのことが見えなくなり、もちろん相手のことも気にしなくなります。自分のことが中心になってしまい、より人を傷つけるのだと思います。「自分を見失わないこと」が大切だと思います。 **2年女子**

• 一番心に残ったのは、「大事なはいじめられる方の気持ちで、いじめている人がどう思っているかどうかはどうでもよい」という言葉でした。「知らない間に人をいじめていた」・・・、こんなに怖いことはないと思うし、本当に気を付けていかないとはいけません。 **2年女子**

• 「人によって心の風船の大きさは違う」という言葉が、とても印象に残っています。 **3年男子**

• いじめが、国の法律で禁止されていることを初めて知りました。日本全体で駄目と言われているほど、重要なことだと思いました。自分にとってはちょっといいと思うことでも、相手にとってはいじめかもしれません。 **3年女子**

• 私は過去に、容姿や学力のことでいじめられ、心を痛めたことがありました。そんな私に言わせれば、いじめられている側に、「つらい」「苦しい」などの負の感情があったなら、それは誰が何と言おうと「いじめ」です。「これ以上、誰かが誰かを傷つける行為はやめてほしい」と願うばかりです。 **3年女子**

• 最近の芸能界は自殺が多いです。また、ネット上のトラブルの話もよく聞きます。そう考えると、「いじめは遠い存在ではないのだな」と思います。 **3年女子**

• 今の学校には、なやみ相談できる電話があり、SOSボックスもあります。もし、友達の中に苦しんでいる子がいたら、助けになりたいです。 **3年女子**

上の言葉にもあったように、人の心が死んだ時、その人の体も死ぬ可能性があります。そうなれば、いじめを行った人も、いじめを受けた人も、いえ、その周りの人たちも・・・みんなが悲しい思いをすることになるでしょう。いじめは、本当に残酷です。だからこそ、一人一人が真剣に考えていかなければなりません。「他人事」ではなく、「自分事」として・・・。